

インターンシップに関する研究

川端 由美子 / KAWABATA, Yumiko

学生・キャリア支援センター

■専門分野 教育学
■キーワード インターンシップ、キャリア教育、職業教育

連絡先 kawabata.yumiko@ocha.ac.jp

研究内容

■概要（背景・目的・内容）

インターンシップは、勤労観・職業観の育成や学修意欲の喚起を促す重要な意義を有するとし、大学においては積極的な実施が求められています。しかし、参加する学生数が少ないことが、これまで問題視されてきました。また、就職・採用活動の開始時期変更に伴い、採用活動の前段階でインターンシップを実施する企業が増え、インターンシップが採用活動の入り口として機能し始めています。

そこで、インターンシップに関する課題に対し、様々な調査研究をおこなっています。これまで実施してきた調査は、「初年次生のインターンシップ理解度」「初年次生のインターンシップに対するイメージ」「インターンシップ参加学生の否定的意見」「自由応募型インターンシップに対する大学の関与」などです。

■応用・将来展望

大学から社会への移行にあたり、インターンシップは将来を考えるための有益な機会の一つです。我が国における若者の人材育成の観点からも、インターンシップをはじめとした初年次からのキャリア教育・職業教育の充実等が求められています。

インターンシップは「学生」「受入先企業等」「教育機関（大学等）」の三者が関係し、それぞれに意義を有するものの、多種多様なインターンシップが出現し、目的や狙いが異なるため、不明瞭であったり、複雑化しています。社会動向を見据え、その時々において課題設定し、調査研究したことを、教育の場に反映させています。

■活動実績

・2013年度高良記念研究助成、日本インターンシップ学会、川端 由美子、「大学生のインターンシップに対する認識」、2013

主要研究成果

・（日本語）、川端 由美子、「大学初年次生に対するインターンシップの意識調査」、インターンシップ研究年報、18号、25-30頁、2015.11

・（日本語）、平尾 元彦・川端 由美子・本庄 麻美子・松坂 暢浩、「インターンシップ参加学生の否定的意見：地方国立4大学合同調査に基づく報告」、インターンシップ研究年報、18号、39-44頁、2015.11